

ティア代表取締役社長・富安徳久の半生を描いた
連続ショートドラマ「最期の、ありがとう。」が
BRANDED SHORTS 2026「HR Best Short Award」受賞!!
— 葬儀の仕事が持つ意味と価値、人に寄り添う姿を描いた物語が評価 —

株式会社ティア（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：富安徳久）は、YouTube、TikTok で配信している連続ショートドラマ「最期の、ありがとう。」の第 32～34 話「鬼の目にも涙」が、「BRANDED SHORTS 2026」の HR 部門において「HR Best Short Award」を受賞したことをお知らせします。

本作は、ナショナル部門と HR 部門の 2 部門にノミネートされ、2026 年 9 月 29 日（火）、赤坂インターシティコンファレンスで開催された「Visual EXPO by BRANDED SHORTS」のアワードセレモニーで、HR 部門の受賞作品として発表されました。

今回の受賞では、葬儀という仕事を通じて、一人ひとりの人生や、その人を想う家族に真摯に向き合う姿を描き、人に寄り添うことの大切さと、仕事が持つ意味や価値を、心に残る物語として伝えている点が評価されました。



■ 「HR Best Short Award」について

「BRANDED SHORTS」は、米国アカデミー賞公認の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（SSFF & ASIA）」と連動し、企業や団体の理念・存在価値を伝えるブランドムービーに光を当てる取り組みとして、2016 年に誕生しました。11 年目となる 2026 年には、映像を通じてブランド戦略、人材育成、ビジネスマッチングを促進する「Visual EXPO by BRANDED SHORTS」へと進化しました。

BRANDED
SHORTS

「HR Best Short Award」は、人材採用につながるブランディングの観点から、「Purpose（存在意義）」「企業の魅力」「メッセージ」「視聴維持」「オリジナリティ」「視聴後の想起」の6つの基準で審査し、最もエンゲージメント性の高い作品に贈られる賞です。

■ 受賞の意義——葬儀の仕事と、ティアの価値観を伝える映像として

葬儀の仕事は、故人様の人生を尊重し、大切な人を亡くされたご遺族の想いに寄り添う仕事です。ティアは、「目指せ！日本で一番「ありがとう」と言われる葬儀社」を生涯スローガンに掲げ、富安が仕事を通じて学び、受け継いできた想いを全社員に教育し繋いでいます。本作は、そうした想いやティアのアイデンティティを、ストーリーを通して発信する映像になっています。

今回の受賞は、当社が採用活動やインターンシップでも活用している本作について、葬儀の仕事が持つ意味と価値を、人材採用の観点からも評価いただいたものと受け止めています。企業の理念や働く姿勢を物語として伝える本作は、葬儀業界を知らない方にとっても、仕事への理解を深め、自分自身の働き方を考えるきっかけとなっています。

■ 採用・インターンシップで活用——物語を通じて、葬儀の仕事への理解を深める

ティアでは、本作を採用活動やインターンシップに活用し、葬儀の仕事や、当社が大切にする「人に寄り添う姿勢」を伝えています。

合同企業説明会やインターンシップでは、ドラマの告知チラシを配布して視聴を案内。インターンシップ前には、本作の認知度調査も実施しています。

また、ドラマを視聴し、描かれたシチュエーションごとに「富安はこの時、どのように行動したか」を参加者が考えるインターンシップを実施しています。物語の登場人物が直面する場面を自分自身に置き換えて考え、意見を交わすことで、ご遺族への向き合い方や、葬儀の仕事に求められる姿勢への理解を深める機会としています。高校生を対象としたインターンシップでも、本作を視聴する機会を設けています。

参加者からは、次のような感想が寄せられています。

- ・ 「葬儀の仕事をまったく知らなかったが、イメージがわいた」
- ・ 「ここまでやるんだと思った」
- ・ 「自分がこうするだろうなと想像する以上の寄り添いをしていて、すごいと思った」
- ・ 「身近な人の死を考えるきっかけになった」

こうした声からは、ドラマが葬儀の仕事のやりがいだけでなく、責任や難しさに触れる機会となり、命や身近な人との関係について考えるきっかけにもなっていることがうかがえます。ティアは、本作を通じて、仕事内容の説明だけでは伝えきれない仕事の意義や価値観を届け、当社で働くことへの理解と共感につなげていきたいと考えています。

■ 代表取締役社長 富安徳久 コメント

このたびは『HR Best Short Award』をいただき、誠にありがとうございます。私の書籍『最期の、ありがとう。』がショートドラマとなり、皆さまに評価いただけたことを、本当に嬉しく、誇りに思います。

本作を通じて一番伝えたかったのは、仕事に上も下もなく、それぞれに意味と意義、役割があるということです。私が生業としてきた葬儀の仕事についても、その価値を世の中にきちんと評価していただきたいという想いがありました。葬祭プランナーとして仕事にこだわりを持ち、人財教育にもこだわりのながら、事業を進めてきました。その歩みがドラマとなり、今回の受賞につながったことを大変嬉しく思います。

この受賞を機に、これからも人の成長を促せる企業であり続けたいと考えています。人財教育に一層力を注ぎ、努力を重ねてまいります。今回の受賞、本当にありがとうございました。

■ 連続ショートドラマ「最期の、ありがとう。」について

「最期の、ありがとう。」は、ティア創業者・富安徳久の半生を描いた同名書籍を原作に、実話をもとに一部フィクションを加えた連続ショートドラマです。

18歳で葬儀業界に飛び込んだ富安徳久は、仕事への愛とひたむきさを貫く先輩・藤田純人との出会いによって、人生を大きく変えられます。藤田の背中を追いながら、さまざまな人の「最期の瞬間」と向き合い、やがて株式会社ティアを創業。物語は、その歩みとともに、葬儀の現場に生きる人々の葛藤や成長、故人とご遺族の間にある想いを描きます。

主人公・富安徳久役を永田崇人、人生の師となる藤田純人役を市原隼人が演じています。人生の最期だからこそ生まれる感謝と、「本気で生きる」ことの尊さを伝える作品です。今回受賞した第32～34話

「鬼の目にも涙」は、息子を亡くした父と母、そして恋人、それぞれの想いに向き合うエピソードです。



作品名	連続ショートドラマ「最期の、ありがとう。」
受賞対象	第32～34話「鬼の目にも涙」
受賞名	BRANDED SHORTS 2026 HR部門「HR Best Short Award」
配信開始	2025年10月1日

配信	YouTube：横型ドラマ完全版・全 50 話／TikTok：縦型ショートドラマ・全 60 話 (全話無料)
主演・出演	永田崇人（富安徳久役）／市原隼人（藤田純人役）ほか
総監督	宮武由衣
制作協力 製作著作	TBS スパークル ティア
公式サイト	https://saigonoarigato.com/



<本リリースに関するお問い合わせ>

株式会社ティア ESG 事業部 担当／加藤・山田・野村
TEL. 052-918-8272（直通）Email. tear-mc@web-tear.com

<株式会社ティア 会社概要>

本 社：愛知県名古屋市北区黒川本通 3 丁目 33 番地 1
代 表 者：代表取締役社長 富安 徳久
設 立：1997 年 7 月
資 本 金：18 億 9,200 万円（2026 年 3 月末現在）
上 場 市 場：東京証券取引所 スタンダード、名古屋証券取引所 プレミア市場
従 業 員 数：991 人（2026 年 3 月末現在）
事 業 内 容：葬儀施行全般や各種法要の請負
 葬儀施行後の遺族の相談内容に応じたアフターフォロー

北海道、中部、関東、関西に直営、FCで葬儀会館を運営

フランチャイズによる葬儀ビジネス参入提案とノウハウ提供

会館数 : 230 会館（2026 年 10 月現在）

コーポレートサイト : <https://www.tear.co.jp/company/>